第１６回手話通訳技能認定試験（実技）

聞き取り通訳試験（問題）

第１問　テーマ「一生懸命に走る姿」

先日、わが家の近くの小学校で秋の運動会が行われた。リレーなどは観戦していると、ついつい応援に力が入る。日曜日で、家でゴロゴロしている夫を連れ出し、運動会に出かけた。

家を出るときには面倒くさそうな顔をしていた夫も、すっかり運動会の雰囲気にのせられたらしく、大きな声で声援を始めた。６年の徒競走のとき、「おお、一番左端の子、速そうだなあ。頑張れー」。パーンというピストルの音。６人の子どもたちが一斉にスタート。夫の予想どおりに、一番左端の子がみんなを引き離して、先頭を走る。

どんなレースでも必ず、一位がいればびりもいる。わたしは、いつもびりだった。だから、運動会が大嫌いだった。小学校の最後の運動会の朝、「あーあ、今日もびり。行きたくないな。」とつぶやいたわたしに、傍らで新聞に目を通していた父が、「父さんには、一生懸命に走るお前が、まぶしく見えるよ。」と言ってくれた。

町工場で旋盤工をしていた父は、当時、折からの不景気で会社が倒産し、失業していた。娘のわたしは、そんな父に心のどこかで、頼りなさを感じていた。しかし、このひと言で、父に、とっても励まされた。その日の徒競走、わたしはやっぱりびりだった。しかし、６年間で、一番、力いっぱいに走ることができた自分に、心から満足していた。

今、こうして、見知らぬ子どもたちの応援をするのも、「ひたむきに生きることの大切さ」を、いくらかでも、子どもたちに伝えたいという思いがあるからかもしれない。

６着の子がゴールした。わたしは、その子に、さらに大きな拍手を送った。

第２問　テーマ「コンビニと『便利さ』について」

コンビニエンスストア。今や、わたしたちの生活に欠かせない場所の一つになっている「コンビニ」は、昭和 44 年、愛知県でオープンして、今年で 35 年経ち、その数は、2001 年４月現在で、全国に、５万５千店舗にものぼります。

コンビニエンスは「便利」という意味で、ストアは「店」ですから、もともと「便利なお店」なのですが、その「便利さ」がなぜ実現できたかを考えてみると、現代社会のキーワードにつながって、その「便利さ」があることに気づきます。

その一つ目は、なんといっても、ほとんどのコンビニが、24 時間、一年じゅう休むこともなく営業しており、夜間や早朝でも気軽に立ち寄れることです。

二つ目は、約 30 坪の店内に、弁当や総菜など、買ってすぐ食べられる食品から、文具や生活用品など、約３千品目が販売されていること。

そして次に、物を売るだけではなく、宅配便の受付や、公共料金などが振り込める便利さです。最近では、高齢者や妊婦などで荷物を持ち帰るのが大変な場合には、コンビニが配達サービスをしてくれるなど、大切な生活基盤となりつつあります。

しかし、便利さの裏にいくつかの問題もあるようです。例えば、おにぎりは１個ずつ、お菓子などもミニサイズを用意するなど、少量パックが売られていて便利なのですが、この便利さはそのままゴミ問題に直結し、新たな社会問題になっています。

コンビニの利用状況を調べてみると、週に３日ないし４日利用しているのは、学生で半数以上、行政職員では 20%となり、高齢者でも４割の人が利用しているというデータがあり、どの世代でも、コンビニが生活に入り込んでいる実態が浮かび上がってきます。

第１６回手話通訳技能認定試験（実技）

読み取り通訳試験（手話表現の要約）

筆記通訳　テーマ「忘れられないこと」

今は手話がこんなに普及しているが、自分が若い頃にはそうでなく、聞こえないことでいじめられることが多かった。聞こえない兄弟をもっていることでのいじめも多くあった。そうした状況の中で、幼い兄弟を亡くした者もいた。

電車の中で手話を使っていても、以前のような雰囲気はなく、むしろ、手話への関心の広がりを感ずるほどになっている。

口頭通訳　テーマ「私の抱負」

私の地域の市長選挙で、長年、障害者と関わってきた方が立候補された。みんなで、応援をしようということになり、私は、手話で応援演説をした。一生懸命、候補者について、推薦の話をした。

選挙の結果、当選。とてもうれしかった。

こんど自分も選挙に出てみようかと考えている。